

<b>教育方針</b>	校訓「友愛、責任、自立」のもと、学校・家庭・地域が一体となった体験活動や姫路特別支援学校との交流及び共同学習を通して、「豊かな心」や「共生の心」を育むとともに、確かな学力や自律的に生きる力を培い、夢の実現に努力を続ける、知・徳・体の調和のとれた人間を育成する
<b>重点目標</b>	1 授業力向上を生徒指導につなぐ「わかる授業」づくりに努め、確かな学力の確立を図る 2 就業体験(インターンシップ)を導入し、キャリア教育の充実を図る 3 生徒指導と生徒支援の充実を図る 4 保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する 5 姫路特別支援学校との交流及び共同学習を推進し、「共生の心」を育む

(評価)

4 よくできた	A 平均 4.0~3.4
3 できた	B 平均 3.3~2.7
2 あまりできなかった	C 平均 2.6~2.0
1 できなかった	D 平均 1.9以下

(評価)

昨年度平均	3.14
今年度平均	3.09

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 A 評価できる取組と評価する内容 B 具体的な課題や問題点 C 解決に向けての方策
学校運営	開かれた学校づくり	地域への貢献	1	地域の行事や近隣の施設等に生徒会や部活動の生徒が参加し、地域に貢献し、開かれた学校づくりを推進する。	3.7	3.2	3.6	④ 64% ③ 36% ② 0% ① 0% A 夢ビジョン東等への積極的参加。 A 公民館での交流や部活動での特別支援学校との交流。
		家庭や地域への情報発信	2	PTA総会や学校ホームページ(月1回更新)、学校通信、学年通信を通じて、学校の情報を積極的に発信する。	3.5	3.1	3.4	④ 48% ③ 43% ② 10% ① 0%
			3	オープンスクール、オープン・ハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。	3.8	3.4	3.6	④ 62% ③ 38% ② 2% ① 0%
		学校評議員の活用	4	学校評議員会を年間2回開催し、各評議員からの意見を公表し、来年度の学校運営に反映する。	3.2	3.0	3.1	④ 24% ③ 66% ② 10% ① 0%
	生徒指導	生徒指導体制の充実	5	明確な生徒指導基準を設定し、生徒・保護者・教職員間でその共有を図り、指導の徹底を目指す。	2.7	2.7	2.9	④ 21% ③ 50% ② 24% ① 5% B 学年間の差異が気になります。 B 生徒と教職員との間で、基準がずれていると感じる。教員同士でも同じである。
			6	外部講師等の活用により、薬物乱用防止、DV防止、情報モラル啓発など社会の変化に対応した指導を行う。	3.2	3.0	3.0	④ 24% ③ 57% ② 19% ① 0%
			7	生徒指導部中心に登下校指導を行い、生徒のマナー等の向上を図り、交通安全指導や通学路の安全確保に努める。	3.4	3.0	3.3	④ 43% ③ 50% ② 7% ① 2% A 担任の教員も登下校の様子を見たほうがよいと思う。
			8	全校集会等ではプロジェクターなどを活用して、生徒の視覚に訴える等、より効果的な指導を展開する。	3.2	2.9	3.1	④ 24% ③ 64% ② 12% ① 0%

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 A 評価できる取組と評価する内容 B 具体的な課題や問題点 C 解決に向けての方策	
学校運営	生徒指導	基本的生活習慣の確立	9	規則正しい生活のリズムを整えさせ、心身ともに健康な生活を送ることができる習慣を培うとともに遅刻指導の充実を図る。	2.5	2.5	2.7	<p>A 保護者との協力が得られない部分をどのようにしていくか。 B 遅刻生徒の数が非常に多く、指導は学年・担任によりけりなので統一感がない。 C 保護者の協力を得るために、PTAからの呼びかけなども必要か。</p>	
			10	イエローカード等の活用を図り、ルール(服装・頭髪)やマナー等を遵守させ、規範意識を育てる。	2.6	2.6	2.7	<p>使う教員に限られてきている。</p>	
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	11	生徒との個人面談を早期に実施し、内面理解を図り、キャンパスカウンセラー等による研修を実施し、効果的な指導法の共有を図る。	3.0	3.1	3.1	<p>B 生徒と面談する時間がとりにくかった。</p>	
			12	生徒・保護者に対して、教育相談に関する情報を提供し、心の教育を充実する。	2.9	2.9	3.0		
			13	生徒指導部と学年団が協力し、別室指導、継続指導等の効果的な指導を行い、心のサポートを継続的に行う。	2.9	2.7	2.9	<p>B 生指と学年の連携がとれているとは言いがたく別室指導に効果があるかは疑問。 B 学年主導で動いているので生徒指導部まで指導を願うことがない。</p>	
		進路指導	進路指導体制の充実	14	LHR、総合的な学習の時間など各学年段階に応じた計画的な進路指導計画を作成し、体系的な進路指導を実施する。	3.2	2.9	3.0	<p>B 進路指導計画を見たことがないですし、LHRは学年任せなので体系的と言えないと思いますが。</p>
				15	進路指導部と学年が連携し、進学・就職に関する有効な情報を生徒・保護者に提供する。	2.8	2.9	2.9	
			進路意識の向上	16	外部講師を活用した進路別学習会やオープンキャンパスや企業見学への参加等、体験を通して進路意識を高める。	3.5	3.1	3.2	<p>A 進路意識をいかに早くつけるかが課題。</p>
				17	進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。	3.3	3.2	3.1	<p>B 就職希望者以外の指導が困難な状態です。生徒はなんとかかなと思っている。</p>
	個別指導の充実		18	挨拶の仕方、話し方、聞き方などの就労支援(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、社会性を培う。	2.9	2.9	2.7		
					B	B	B		

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 A 評価できる取組と評価する内容 B 具体的な課題や問題点 C 解決に向けての方策
学校運営	教職員の資質の向上	指導力の向上	19	生徒への授業アンケート・研究授業等を利用して、実践的な指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。	3.1	2.9	3.0	④: 21% ③: 60% ②: 17% ①: 2%
			20	カウンセリング研修や救急救命法など外部講師の活用や他校の有効な情報を共有化するなど校内研修の充実を通して、教員の資質向上を図る。	3.3	3.1	3.2	④: 24% ③: 71% ②: 5% ①: 0%
	危機管理体制の整備	実効ある危機管理マニュアルの策定	21	防災マニュアル等を作成し、校内の組織化と役割分担を明確化する。また、病院、警察など関係諸機関と連携する。	3.1	2.9	3.0	④: 19% ③: 67% ②: 14% ①: 0%
					B	B	B	B 校内役割分担の具体的な作業マニュアルの作成。
	学校運営全般	学年・学級経営	22	前年度の課題や学校の重点目標を踏まえ、学年・学級で目標を立て、その実現に向けて努力する。	3.2	3.1	3.1	④: 22% ③: 68% ②: 10% ①: 0%
			23	保護者会・三者面談・家庭電話連絡の実施など、家庭との連絡を密にして、信頼される学校づくりを推進する。	3.2	3.2	3.3	④: 38% ③: 52% ②: 10% ①: 0%
PTCA活動	PTCAとの連携	24	通学マナー指導や地域の環境整備活動、学校行事などへの積極的な参加協力により、教育目標の具体化を図る。	3.1	3.0	3.1	④: 26% ③: 60% ②: 12% ①: 2%	
教育課程	自ら学び、自ら考える力の育成	体験的な学習の展開	25	ボランティア実践やふれあい育児体験など、地域の教育資源を生かし、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。	3.5	3.2	3.4	④: 48% ③: 48% ②: 5% ①: 0%
		生涯学習の視点に立った実践能力	26	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、生涯を通じて学び続ける意欲と態度を育成する。	3.4	3.2	3.4	④: 43% ③: 50% ②: 7% ①: 0%
	基礎・基本の定着	わかる授業の展開	27	定期考査や模擬試験等によって、生徒の学力を的確に把握し、少人数授業や習熟度別授業など効果的な指導を実施する。	3.0	3.1	3.1	④: 21% ③: 64% ②: 14% ①: 0%
					B	B	B	B 英数のクラス分けがどこまで有効かわからない。授業が成り立ってない様子。
	総合的な学習の時間	創意工夫を生かした実践の展開	28	生徒の多様な興味・関心、能力・適性、進路希望など生徒のニーズにあった学習テーマを設定し、実践する。	3.0	2.9	2.9	④: 14% ③: 64% ②: 21% ①: 0%
					B	B	B	
個に応じた学習指導の徹底	指導形態の工夫	29	授業アンケートを通して、授業に対する振り返りの機会を設け、能力に応じて補習や補充を行うなど、指導方法に工夫を加える。	3.0	2.9	3.0	④: 26% ③: 52% ②: 21% ①: 0%	
				B	B	B		
特別活動	生徒の自主的な活動の活性化	30	学校行事やボランティア活動において、生徒会等が企画、運営にかかわり、生徒の自主・自立の意識を高める。	3.3	3.1	3.2	④: 29% ③: 64% ②: 7% ①: 0%	
B	B	B						

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	前年度最終評価	中間評価	今年度最終評価	評価割合 A 評価できる取組と評価する内容 B 具体的な課題や問題点 C 解決に向けての方策
課題教育	防災・安全教育	防災・安全教育の充実	31	自然災害や不審者の侵入など不測の事態に適切に対応できるように、避難訓練や防災・安全教育の充実を図る。	2.8	3.0	3.0	④ 19% ③ 57% ② 24% ① 0% B 校内役割分担の具体的な作業マニュアルの作成。
					B	B	B	
	人権教育	人権教育推進体制への取組	32	学年と人権教育委員会が連携し、ホームルームや講演会などを活用して計画的な人権教育を展開する。	2.8	2.8	2.7	④ 12% ③ 52% ② 31% ① 5% B 年間計画のようなものを見たことないですし、LHRの計画も完全に学年任せな状態だと思うのですが。 B 人権委員との連携。
					B	B	B	
	人権教育	人権意識の確立	33	自他の命を大切にし、自他に対する肯定的な態度を育てるなど、共生社会に向けて、人権に対する理解と意識を高める。	3.0	2.9	2.8	④ 12% ③ 60% ② 26% ① 2%
					B	B	B	
	情報教育	情報活用能力の育成	34	情報機器の基本的技術及び情報活用能力を育成し、情報処理検定などの資格取得を目指す。	3.4	3.2	3.4	④ 40% ③ 55% ② 5% ① 0%
					A	B	A	
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	35	興味・関心や進路希望等に対応した類型を設置し、学校設定科目や多様な選択科目を設定し、特色化を推進する。	3.1	3.1	3.2	④ 29% ③ 59% ② 12% ① 0% A 活動の充実を特色化メンバーで確立したい。科目設定だけでなく B 科目の精選が必要。
					B	B	B	
学校の個性化・多様化	外部講師の活用	36	福祉・情報・商業・保育・医療看護系に応じた選択科目の設置や外部講師の招聘など特色ある教育を展開する。	3.2	3.2	3.3	④ 34% ③ 59% ② 7% ① 0%	
				B	B	B		
学校の個性化・多様化	社会的自立に向けた教育の充実	37	外部講師を活用した授業や部活動指導、講演会などを通して、生徒の多様な興味・関心に応える教育を展開する。	2.9	3.0	3.1	④ 29% ③ 52% ② 19% ① 0%	
				B	B	B		
学校の個性化・多様化	社会的自立に向けた教育の充実	38	キャリア教育や就業体験(インターシップ)などの充実を図り、主体的に進路選択ができる姿勢や能力を育成する。	3.1	3.0	3.0	④ 26% ③ 52% ② 21% ① 0%	
				B	B	B		
学校の個性化・多様化	社会的自立に向けた教育の充実	39	進路の手引き等を活用した継続的な指導を通して、自己の将来を見据えた生き方、働き方を育成する。		2.9	2.9	④ 26% ③ 52% ② 21% ① 0%	
					B	B		
学校の個性化・多様化	交流及び共同学習の推進	40	交流及び共同学習や体験学習を通じて、共生の心を育み、自己有用感や自尊感情を育成する。	3.5	3.3	3.2	④ 19% ③ 48% ② 33% ① 0%	
				A	B	B		

自由記述欄

- ・学年ごとの指導があってもいいが、各学年・部が互いに連携して、学校として一貫した指導が各方面で行われることが必要。専門部がもっとイニチアティブを取るべきだ。
- ・1年の1学期は「学び直し」が必要。思い切ることができることから徹底して取り組むPLANが大切。学力向上のために時間を十分にかけるため、小さなことから達成感を持たせる方法を構築すべき。別所に入ればやり直しができるをアピールしていくことも、本校には必要。レベルを下げるわけではなくレベルを押しさえつつ、どこでつまづいているかを明確にし、生徒がどこで立ち止まっているかを共有化を図る。
- ・実践目標に「計画」という言葉を入れるのであれば、4月の職会等で年間計画を出し、全職員で情報を共有化を図る。
- ・学年主導な部分が多く、いくつかの専門部や委員会は存在感すらないように感じる。